

41961

教科書文庫

4
820
41-1938
20000 41458

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

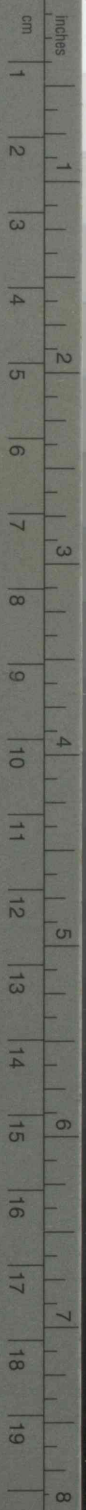


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

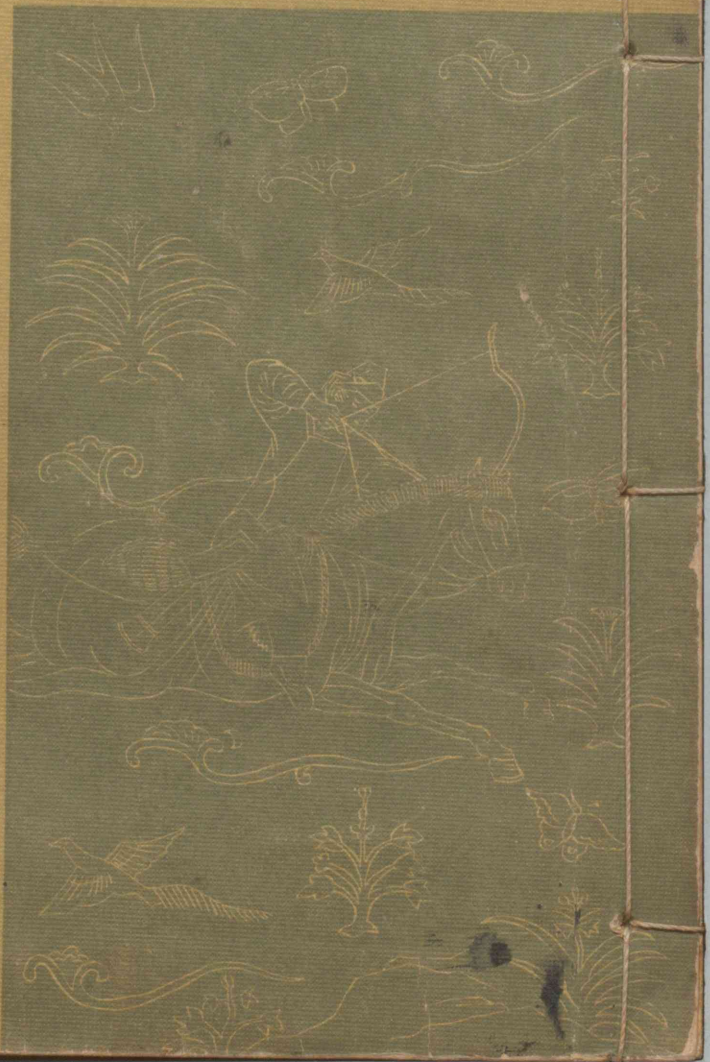


3259  
Shi15  
資料室

漢文精選階梯

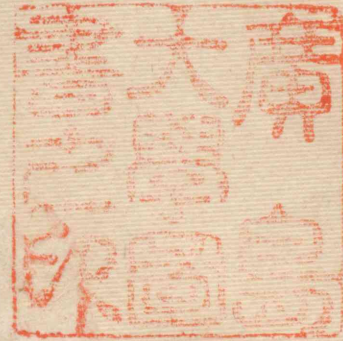
鹽谷溫編

全





資料室



新文辭彙編

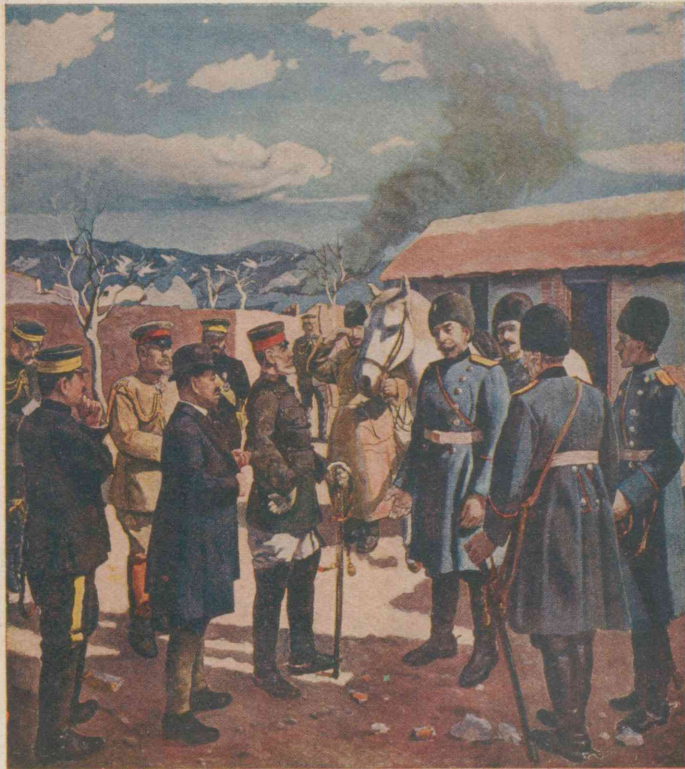
文辭彙編





3759  
SHU5

昭和三十一年一月二十日  
中華學校國語文教科書  
文部省檢定



日露役旅順開城

東京帝國大學  
文學部教授

# 漢文精選階梯

東京帝國大學  
文學部教授  
文學博士 鹽谷 溫 編



東京  
株式會社 弘道館 發行

乃美中學校

後日臨查





爾靈山險豈難攀  
男子功名期克艱  
鐵血覆山形  
改萬人齊仰爾靈山

大將子將大迫盟兄清壁

辛與屬



漢文精選階梯 目次

- 一 漢文ノ讀法
- 二 漢文ノ精神
- 三 句 例一
- 四 句 例二
- 五 皇 統(訓讀)
- 六 元 寇
- 七 句 例三
- 八 三 景(訓讀)
- 九 德川光圀
- 一〇 林鵜峯(練習)
- 二 句 例四

原 中  
村

善 和

一 二 一〇 八 七 六 四 三 二 一  
一三 一二 一一



三	黑田孝高(訓讀)	中村和	一四
三	岳飛, 慷慨(練習)	宋史	一五
四	平塚越中	大槻清崇	一六
五	格言		一七
六	句 例五		一七
七	秀忠, 重信(訓讀)	元田永孚	一八
八	赤心報國	原善	一九
九	草莽, 臣正之	賴襄	二〇
一〇	不知, 飯之既焦(練習)	齋藤馨	二一
一一	句 例六		二二
一二	歷山王	中村正直	二三
一三	辰爾, 奇智	中村和	二三
一四	萬惡之原, 生於弱(練習)	續蒙求	二四

一五	箱根温泉		二五
一六	句 例七		二五
一七	以, 人為寶(練習)	中村和	二七
一八	以, 三軍之刀為我刀(練習)	大槻清崇	二八
一九	句 例八		二九
二〇	立志	角田簡	三一
二一	勿, 求補於一人	皇朝金鑑	三一
二二	勸學	陶淵明	三二
二三	句 例九		三三
二四	寶祚無窮	日本書紀	三四
二五	清麻呂, 忠節	皇朝金鑑	三六
二六	格言(練習)		三七
二七	孟母, 斷機	蒙求	三八



三	勸學	朱	慕	三九
元	偶成	朱	慕	三九
四	三年不飛 <small>(練習)</small>	曾	先	四〇
四	除日講起	原	善	四一
四	函人 <small>(練習)</small>	中	村	四二
四	句例十	賴	襄	四三
四	本多忠勝	賴	襄	四四
四	壯哉平八 <small>(練習)</small>	角	田	四六
四	忠教不避 <small>(練習)</small>	角	田	四六
四	武將宜如此 <small>(練習)</small>	中	村	四七
四	乃水大將	土	屋	四八
四	兜爾靈山	乃	水	四九
五	挽乃水將軍 <small>(練習)</small>	鹽	谷	四九

五	仁德天皇	青	山	延	于	五〇
五	燒紅葉 <small>、</small> 煖酒 <small>、</small>	青	山	延	于	五一
五	阿部仲麻呂	青	山	延	于	五一
五	菅公忠愛	青	山	延	于	五二
五	孝高御銀 <small>(練習)</small>	角	田	簡	五	五四
五	叔教陰德	日	記	故	事	五六
五	格言	日	記	故	事	五六
五	加藤戰狀	土	屋	弘	五	五七
五	將門出將 <small>(練習)</small>	賴	襄	五	九	五九
六	元就戒子 <small>(練習)</small>	大	槻	清	崇	六〇
六	木村重成	賴	襄	六	二	六二
六	幸村力戰 <small>(練習)</small>	中	村	和	六	六三
六	政宗遣使於羅馬	事	實	文	編	六五



空	義家學(練習)	賴	六六
空	八幡公	賴	六七
空	格言	六八	
空	義光赴兄急	六八	
空	太田道灌	七〇	
空	詠史	七二	
吉	鈴木犯齋	七三	
七	信綱捕乳雀	七四	
七	大猷公英邁	七五	
附	錄		
部	首表		



# 漢文精選階梯

文學博士 鹽谷 溫 編

## 一 漢文ノ讀法

讀法、音トクハフ、ヨ  
ミカク  
漢土、支那  
應神天皇、第十五代ニ  
アタラセタマフ  
直讀、音讀、又ハ極讀  
トモイフ  
例讀、下カラ上ニカヘ  
ツテヨムコト  
音、漢字ノ音ノママノ  
ヨミカタ  
訓、漢字ヲ國語ニアテ  
タヨミカタ

漢文ハ本來、漢土ノ文章デアル。應神天皇ノ御代ニ、始メテ  
之ヲ我が國ニ傳へ、最初ハ字音ノママニ直讀シタガ、後ニハ、  
音ト訓トヲ交へ、句讀點ヤ、返リ點送り假名ナドヲ施シテ、倒  
讀スル方法ガ發明セラレ、次第ニ國語デ自由ニ讀ミコナシ、  
又國語ヲモ漢文デ綴ルヤウニナツタ。



漢文ヲ文語體ニヨツテ、國語讀ミニスルコトヲ訓讀トイヒ、  
返リ點送り假名、及ビ單鉤雙鉤ナドヲ併セテ、之ヲ訓點ト名  
ツケル。

### 二 漢文ノ精神

漢文ノ主トスル所ハ、孔子ノ教デアアル。コノ教ガ我が國ニ傳  
ヘラレテカラハ、ヨク惟神ノ道ヲタスケ、國民道德ノ根柢ヲ  
ナシテ、我が國體ヲ明ニシタ。漢文ヲ讀ム者ハ、ヨクコノ點ニ  
留意シ、文字ヤ語句ナドノ解釋ノ外、更ニソノ精神ヲ學ンデ、  
實踐躬行ニ務メルコトガ大切デアアル。

孔子、支那ノ大聖人デア  
アル

惟神ノ道、神道トモイ  
フ

根柢、モト、根本

實踐躬行、ジツサイニ  
自ラフニオコナフコ  
ト

(ル)(ツ)、送り假名

(。)(、) 句點

(、)、讀點

爛漫、花ノ咲キミダレ  
ルサマ  
ラシマン  
假名  
訓假名、又ハ振  
假名

### 三 句例一

天晴ル。 天晴。

日出ツ。 日出。

天晴レ、日出ツ。 天晴、日出。

櫻花開ク。 櫻花開。

春風暖ナリ。 春風暖。

春風暖ニシテ、櫻花開ク。 春風暖、櫻花開。

百花爛漫タリ。 百花爛漫。



春來。風清。月明。君恩重。一身輕。山高水深。草木繁茂。君君臣臣。父子相親。兄弟和。落花紛紛。天下太平。猛虎一聲。山月高。我軍進擊。敵兵敗走。品行方正。學術優等。

四句例二

(焉) (之) (矣) (者) (也)

天地位ス。天地位焉。  
君臣ノ分定マル。君臣之分定矣。  
孝ハ百行ノ本ナリ。孝者百行之本也。

七代七十餘年の帝都として、咲く花のにほふが如しと誇りし奈良の都も、色移り香失せて年既ニ久クし。今は唯、畿内ノの一都市トシテとして僅かに古の名残を留むるのみ。

(尋常小學國語讀本 卷十二 奈良)

年既久矣。畿内之一都市。

江上之清風。山間之明月。德者本也、財者末也。平重盛忠孝兩全之人也。四時行焉、萬物生焉。東海之中、君子國在焉。兩軍相擊、勝敗決矣。誠危急存亡之秋也。我國開關以來、君臣之分定矣。

君子國、禮儀ノ正シイ  
秋、大切ナトキノ意  
開關、國ガ立チハジマ  
ル



連綿、ナガク引キツツ  
イテ、絶エナイサマ  
タマフ、敬語  
寶祚、天子ノ御位

### 五 皇 統

皇統連綿トシテ、一系相承ケタマヒ、寶祚ノ隆ナルコト、天壤ト無窮ナリ。君嚴ニ臣恭ニシテ、上下和睦シ、國富ミ兵強クシテ、威德發揚ス。是レ誠ニ我が國體ノ精華ナリ。

皇統連綿、一系相承、寶祚之隆、天壤無窮。君嚴臣恭、上下和睦、國富兵強、威德發揚。是誠我國體之精華也。

皇統連綿。天壤無窮。國體之精華。

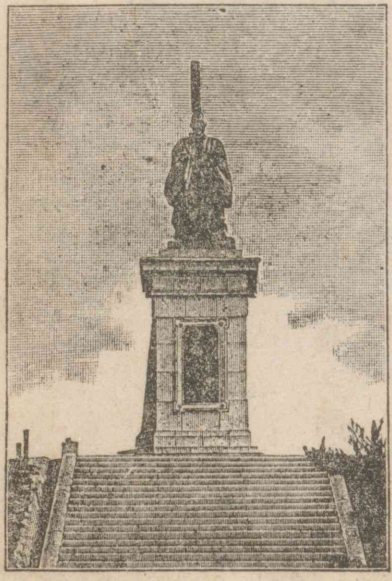
弘安、後宇多天皇ノ年號

奮撃、チカラヲフルツテ敵ヲウツ

アリス  
Vヨウ

### 六 元 寇

弘安四年七月、元兵十萬、大舉來寇。會大雷雨、風浪暴起、船艦多破。我將士因奮撃、虜兵大敗、脫歸者僅三人云。



龜山天皇尊像

浪暴起、船艦多破。我將士因奮撃。虜兵大敗、脫歸者僅三人云。

大舉來寇。船艦破壞。奮撃—奮戰—奮闘。



七句例三

(レ)、返リ點

書ヲ讀ム。讀書。

(ニ)

馬ニ騎ル。騎馬。

(ト)

兄ト爲リ、弟ト爲ル。爲兄、爲弟。

讀書(倒讀)

兄ハ書ヲ讀ミ、弟ハ馬ニ騎ル。兄讀書、弟騎馬。

師ニ從ツテ教ヲ受ク。從師受教。

(而)、シカウシテ

學ンデ而シテ之ヲ習フ。學而習之。

(則)、スナハチ

先ンズレバ則チ人ヲ制ス。先則制人。

讀書(直讀)

讀書—讀書。騎馬—騎馬。好學—好學。

練習 孔子は他人を正す前に先づおのれを正し、近きより遠きに及すを以て其の主義としたり。おのれを修めて人を安んず。とは、彼が簡明に此の意をあらはせる語なり。

(尋常小學國語讀本 卷十一 孔子)

正己。自近及遠。修己安人。

修學。習業。稱快。盡忠報國。在家讀書。臨水釣魚。

豹死留皮、人死留名。幼而好讀書。溫故而知新。戰則勝。

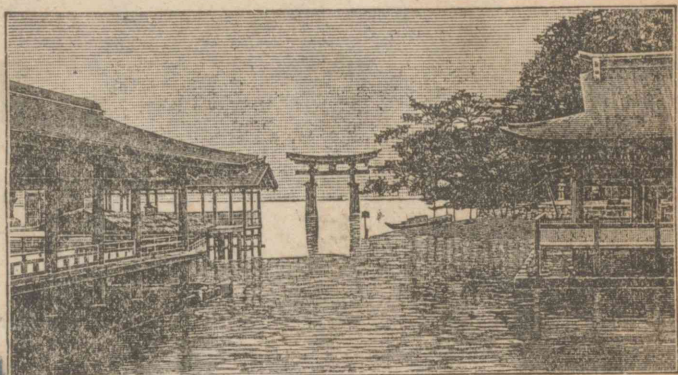
攻則取。

(而)、ヲ讀マナイ例  
温、一説アタダム、  
本字ハ温



(一)、併列點

奇觀、メヅラレイ風景



八三景

三景トハ、陸ノ松島丹ノ橋立藝ノ  
 嚴島是ナリ。嚴島ハ周廻七里。彌山  
 高ク聳エ、其ノ麓ニ神祠在リ。海岸  
 一帯ニハ、白沙遠ク連ナリ、潮満ツ  
 社レバ則チ殿影波ニ隨ツテ動搖ス。  
 眞ニ奇觀ナリ。

三景者、陸之松島丹之橋立、藝之嚴島是也。嚴島

ら4 海

トウニウ  
ウシ  
る

中村和、近江水口藩ノ  
人、栗園ト號ス、明  
治十四年卒

頼房、家康ノ第十一子  
水戸ニ封セラレタ

曰、イハツ  
タシコウ  
單鉤

(字)、カキヤ  
對、コタフ、オコタヘ  
スルノ意

(耳)、ノミ

周廻七里。彌山高聳、其麓神祠在焉。海岸一帶、白  
 沙遠連、潮滿則殿影隨波動搖。眞奇觀矣。

白沙青松。金殿玉樓。水光山色。



德川光圀

九 德川光圀 中村和

德川光圀、頼房子也。頼房  
 嘗問曰、我若臨陣被創、則  
 汝能扶持而退乎。對曰、兒  
 進斬敵耳。時年七歲矣。



國一國一箇 對一答

二 林 鵝峯

原 善

原善、江戸ノ人、愈齋ト號ス、文化三年卒  
林鵝峯、名ハ怒、羅山ノ第三子デアル  
兵、兵器・武器

林鵝峯、爲人剛毅好學博覽多識嘗曰武人執兵而戰效死建功學者讀書立言斃而後已固其本懷也。

池田光政、一日外出。庖人進飯。吸羹。齧沙。憤然變色。庖人曰。風沙飛入口。光政不解。  
(鹽谷世弘)

池田光政、備前岡山ノ藩主  
庖人、音ハウジン、料理ヲツカサドルヒト  
鹽谷世弘、江戸ノ人、宏陰ト號ス、慶應三年卒

二 句例四

利アリ、害ナシ。



無害

風光愛ス可シ。風光可愛。

功ヲ以テ賞セラル。以功見賞。

玉琢カザレバ器ヲ成サズ。玉不琢不成器。

何事カ成ラザラン。何事不成。

誰カ能ク過ナカラシ。誰能無過。

有力如虎。我神州以武建國。奮欲從軍。可言而

- (有) (無)
- (可)
- (以) (見) (被)
- (不)
- (何)
- (誰)
- (彼)



(不可)  
(不能)  
(身)  
(難)

不可行也。信而見疑。戰敗而被擒。城堅遂不能拔。誰敢當之。天誅乘時何賊不斃。人不學不知道。少年易老學難成。一寸光陰不可輕。死生有命富貴在天。陽氣發處金石亦透。精神一到何事不成。

二 黑田孝高

中村 和

黑田孝高、豊臣秀吉ニ  
信任セラレ、如水ト  
號ス

黑田孝高、勇ニシテ智有リ。豊太閤嘗テ問ウテ曰ク、天下何物カ最モ多キト。孝高對ヘテ曰ク、人ナリト。又曰ク、何物カ最モ少キト。對ヘテ曰ク、人ナリト。太閤善シト稱ス。

黑田孝高、勇而有智。豊太閤嘗問曰、天下何物最多。孝高對曰、人也。又曰、何物最少。對曰、人也。太閤稱善。

一三 岳飛慷慨

宋 史

宋、音ソウ、支那ノ國  
號  
岳飛、宋代ノ忠臣  
(不……則)

宋岳飛、慷慨大節、精忠無比。或問、天下何時太平。飛曰、文臣不愛錢、武臣不惜死、則天下太平矣。

漢、支那ノ國號、前後  
ニワカレル  
鐵、音ツク、ヤシリ

漢、李廣嘗出獵、草中見石、以爲虎而射之、中石沒鐵、視之、石也。因復更射之、終不能入石矣。(蒙求)



大槻清崇、仙臺ノ人、  
磐溪ト號ス、明治十  
一年卒

一年卒

東照公、徳川家康ノ廟  
號

聘、音ヘイ、メシカカ  
ヘル

關原役、慶長五年、石  
田三成ノ軍ガ徳川家  
康ニヤアレタイクサ

一四 平塚越中

大槻清崇

平塚越中、剛勇士也。東照公、百方招之、不肯。後石  
田三成、厚禮聘之。公聞而不能平。關原役、越中見  
擒。公怒叱之。越中張目罵曰：「咄、人誰無死。戰敗爲  
虜、武夫之常耳。欲斬則斬之。吾頭可斷、而吾口不  
可塞也。」公壯之、乃解縛放還。

見擒。欲斬則斬之。戰敗爲虜。武夫之常耳。吾頭可斷、  
而吾口不可塞也。

一五 格言

子曰、智者不惑、仁者不憂、勇者不懼。〔論語〕  
子曰、君使臣以禮、臣事君以忠。〔論語〕  
子曰、三軍可奪帥也、匹夫不可奪志也。〔論語〕

一六 句例五

漢文ヲ學ブ、學ニ漢文。  
中學ニ進ム、進ニ中學。

(二〇一)、返リ點。

子、先生ノ意、弟子ヨ  
リ孔子ヲサス



(ヲ)(ニ)

帷帳之中、本營ノ中

元田永孚、熊本ノ人、東野ト號ス、明治二十四年卒

秀忠、徳川第二代將軍

放鷹、タカガリ

中學ニ進ミ、漢文ヲ學ブ。進ニ中學、學ニ漢文。

漢文ヲ講習ス。講習漢文。

業ヲ中學ニ受ク。受業中學。

帶

長刀。

跨肥馬。

登高樓賞明月。

修養精神。

盡

忠王室。

垂名竹帛。

運籌帷幄之中。

決勝千里之外。

無外

患則必有内憂。

一七 秀忠重信

元田永孚

徳川秀忠平生最モ信ヲ重ンズ。一タビ令ヲ出ゲセバ則チ曾テ自ラ違ハズ。出デテ放鷹スル毎ニ期已ニ至レバ、膳ニ

時辰、シカン、トキ

當ルト雖モ直チニ箸ヲ投ジテ起ツ。近臣之ヲ見、其ノ食ノ終ルヲ待ツテ、乃チ時辰ヲ報ゼリ。

徳川秀忠平生最重信。一出令則不會自違。每出

放鷹期已至、雖當膳直投箸而起。近臣見之、待其

食終、乃報時辰。

一八 赤心報國

原

善



淺見綱齋、名ハ安正、山崎綱齋ノ高弟デア

鐔大三寸許、刻赤心報國之四字。

鐔、音タン、刀ノツバ



賴襄、安藝ノ人、山陽ト號ス、天保三年卒

高山正之、寛政三奇人ノ一人

平安、京都ノコト

草莽臣、野ニ在ルヲ草莽ノ臣トイフ、人民ノ意

一九 草莽臣正之

賴 襄

高山正之稱彦九郎。為人白皙精悍、眼光射人、聲如鐘。慷慨有氣節。少入平安、至三條橋東、問皇居何方。人指示之。即坐地拜跪曰、草莽臣正之。行路之人聚觀怪笑、不顧也。又嘗游京郊、過足利尊氏墓、數其罪惡、大罵鞭之三百。

草莽臣。白皙精悍。眼光射人。慷慨有氣節。見一視一觀。數（音スウ…カズ、セム。音サク…シバシバ。）

齋藤馨、仙臺ノ人、竹堂ト號ス、嘉永五年卒

蒲生君平、寛政三奇人ノ一人、名ハ秀實

勃勃、怒ルコト

晉、支那ノ國號。刺史、音シ、州ノ長官。中原、カミガタ

二〇 不知飯之既焦

齋 藤 馨

蒲生君平之在江戸也、貧甚。有一僧往訪焉。君平倚柱有憂色。僧見問之曰、終日不食、故已。僧為走買米來、以炊之、且論外虜事。君平就鍋蓋上、指畫其形勢、談勃勃不已、而不知飯之既焦也。

畫（音グワ、指畫。）

練習 晉陶侃為廣州刺史。在州無事、則朝運百甕齋外、暮運齋內。人問其故、答曰、吾方致力中原、徒爾游逸、恐不堪事。（小學）



(於) (于) 、ニ・ヨリ

二 句例六

學ニ志ス。志ニ於學。

書ヲ樓上ニ讀ム。讀書於樓上。

兄弟ノ争ハ、必ズ欲ヨリ起ル。兄弟之争、必起於欲。

父母ノ恩ハ、山ヨリ高ク、海ヨリ深シ。

父母之恩、高於山、深於海。

源義家、學兵法於大江匡房。良藥告於口、利於病。

入于耳、而出于口。人情薄於紙。國安于磐石。青出於藍、

而青於藍。

源義家、賴朝ノ長子、  
八幡太郎ト稱ス。  
大江匡房、後三條・白  
河・堀河三朝ノ帝師  
トナツタ學者

三 歷山王

中村正直

歷山王、絶漠、伐被斯。上下苦渴。有卒、掬水進王。王

覆之於地、曰、吾何忍獨飲。一軍

感激、遂成大功。

絶漠。苦渴。掬水。覆之於地。何



歷山大王

忍獨飲。

三 辰爾奇智

中村和

船辰爾百濟人。敏達帝時、高麗上表、用烏羽。羽黑、

敏達天皇、第三十代ニ  
アタラセタマフ  
高麗、高句麗ヲサス

中村正直、東京ノ人、  
敬宇ト號ス、文學博  
士、明治十一年卒

歷山王、マケドニア王  
ギリシヤ・ベルシヤ。  
エジプト等ヲ征服シ  
テ、大帝國ヲタテタ  
漠、沙漠



於墨字跡不可別。辰爾乃取其羽，蒸之於飯甑中，以帛印之，文字盡見，始得讀焉。帝大嗟異之。

羽黑於墨，冰水為之而寒於水。

二四 萬惡之原生於弱

續 蒙 求

呂祖謙、宋ノ大儒、朱熹ト同時ノ人

宋呂祖謙嘗有言，弱者天下之大害，學者之大患。大抵為善，主於剛，萬惡之原生於弱。

善一惡。 □一弱。 □一害。 本一□。 剛一□。

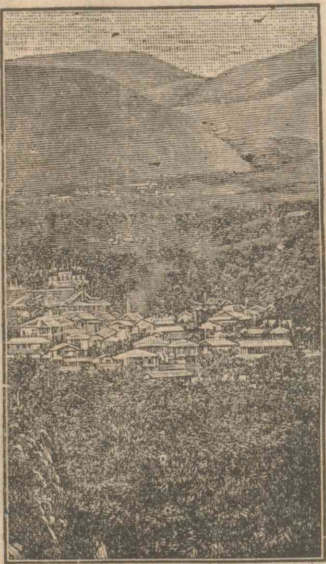
**也。** (近思錄) 古學者為己，欲得之於己。今之學者為人，欲被知於人。

得之於己，自分ノモノニスル

三学期

箱根、神奈川縣足柄下郡ニ在ル有名ノ温泉場

二五 箱根温泉



箱根温泉

箱根山水秀麗，富溫泉，往往出於溪谷間，沸騰熱於湯，以鐵管引之，邸館

盛夏之候，游人殊多。

二六 句例七



(與)

人ト苦樂ヲ同ジウス。與人同苦樂。

(雖)

大敵ト雖モ怖レズ。雖大敵不怖。

(爲)

士ハ己ヲ知ルモノノ爲ニ死ス。士爲知己者死。

(所)

君子ハ爭フ所ナシ。君子無所爭。

(爲...所)

日月ハ浮雲ノ蔽フ所トナル。日月爲浮雲所蔽。

(所以)

忠ハ君ニ事フル所以ナリ。忠者所以事於君也。

**練釋**

與朋友交 爲天下除害。雖不中不遠矣。富與貴

是人之所欲也。先則制人後則爲人所制。師者所以傳道也。

二七 以人爲寶

中村和

歷數、一ツ一ツカブヘ

白旄、音ハクバウ、大將ノサシツバタ

東照公一日、與豐太閤語。太閤歷數其實器、曰、凡天下珍器、我皆藏之。不知子所寶何物。公答以無有。太閤問之不已。公曰、僕有士五百人。白旄所指、雖水火不避。所寶是已。太閤默然有愧色。

歷一曆。默一點。愧一愧。已(音シ)一已(音キ)一已(音レ)一已(音ム)一已(音イ)一已(音ア)一已(音ニ)一已(音ミ)。

**釋**

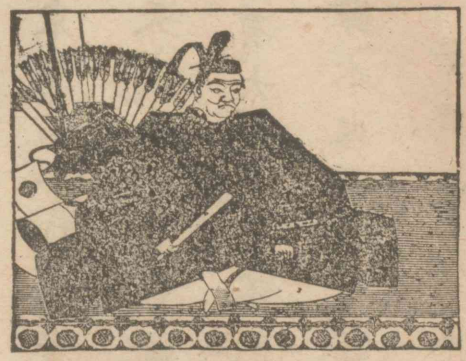
司馬光、幼與群兒戲。一兒墮大水甕中、已沒。群兒驚走、不能救。光取石破甕、兒得出。(純正蒙求)



正宗兼光、名刀ノ名

三軍、諸侯ノ率キル軍  
隊

二八 以三軍之刀、爲我刀。大槻清崇



池田光政

池田光政、爲人英明。嘗曰、正  
宗兼光、其鋒雖利、果爲何用。  
爲主將者、唯以三軍之刀、爲  
我刀、則所向無敵。其鋒誰當  
苟賴一刀、論其利鈍、非主將  
所恥乎。

果爲何用、不爲用。非主將所恥乎、主將所恥也。

板倉重矩、徳川幕府ノ  
重臣  
虚引、カラビキスルコ  
ト

(當)、マヤニ……ベシ  
載、歳二同シ

(須)、スベカラク……  
ベシ

板倉重矩、有寶弓焉、常置之座右。左右伺重矩出、偷張  
虚引之折。大憂恐、以俟。罪重矩還、乃召見曰、夫弓所以護身也。  
今汝不試、則臨有事而折。其患不可計也。折于無事之日、是乃  
予之幸也。(皇朝金鑑)

二九 句例八

當ニ芳名ヲ千載ニ傳フベシ。  
當ニ傳ニ芳名、於千載。  
須ラク第一等ノ人トナルヲ期スベシ。  
須期爲第一等人。

天 以三軍之刀爲我刀 元 句例八



(宜)、ヨロシク……ベシ

(使) (令)、ヲシテ……シム

宜シク身ヲ修ムルヲ以テ本トナスベシ。

宜以修身為本。

生徒ヲシテ漢文ヲ學バシム。

使生徒學漢文。



及時當勉勵。學生不當中道而廢學也。須盡忠王

室。病癒多忘慎。須常思病苦時。宜自重。不宜自輕。宜進

而進。宜退而退。良將也。令壯士挑戰。勿使敵登天王山。

後醍醐天皇在笠置山。使中納言藤原藤房往召楠木正成。正

成即決意赴之。從藤房詣行在。(頼義)

角田簡、豐後ノ人、安政二年卒

伊藤仁齋、名ハ維嶺、京都ノ人、徳川時代ノ大儒

新井白石、名ハ君美、江戸ノ人、六代將軍家宣ニ用ヒラレタ封侯、大名トナルコト

三〇 立志

角田 簡



朱 子 書

伊藤仁齋戒子弟曰。汝等立志。須期為第一等人。

新井白石為兒嬉戲好書天下

一三字。常曰。大丈夫生不得封

侯。死當為閻羅。

戒。戒。第一。第一。齋。齋。侯。侯。

三 勿求備於一人

皇朝金鑑



東照公、嘗言、用人宜取其所长。譬之耳、目、鼻、口、各有所司、以濟其用。鵜入水、以得魚、鷹搏空、以得禽。人各有所長、勿求備於一人焉。

一長一短。一得一失。一利一害。一進一退。

三三 勸學

陶淵明

陶淵明、支那ノ東晉ノ人、後、名ヲ潛ト改メダ  
盛年、少年

盛年不重來。一日難再晨。

及時當勉勵。歲月不待人。

勸—勉。難—艱。勉—挽。勵—礪。

三三 句例九

イマダカツテ見ザル(ノ)書ヲ讀ム。

讀未曾見之書。

マサニ汽船ニ駕シテ歐洲ニ游バントス。

將駕汽船游歐洲。

ナホ快刀ヲ揮ツテ亂麻ヲ斷ツガゴトシ。

猶揮快刀斷亂麻。

ナンソ漢文ヲ善クスルモノヲ以テ從ヘザル。

盍以善漢文者從。

(未)、イマダ……ズ、  
(サル)  
下………返リ點

(將)、マサニ……ス

(猶)、ナホ……ゴトシ

(盍)(何不)、ナンゾ  
………サル  
乙………返リ點



孔子かつて自らいはく發憤しては食を忘れ、樂しんではうれひを忘れ、老の將に至らんとするを知らずと。其の身を忘れよはひを忘れて、人生の爲に盡したる大聖の面目よく此の語にあらはれたりといふべし。

(尋常小學國語讀本 卷十一 孔子)

△發憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至。

△未遂平生之志。盍祈吾主天下。猶登高必自卑。歷未嘗

到之山水。猶去虎口歸慈母。

三四 寶祚無窮

日本書紀

天照大神はいよく瓊瓊杵尊をおくだしにならうとして、尊に向ひこの國はわが子孫の王たるべき地なり。汝皇孫ゆきて治めよ。皇位の盛なること、天地と共にきはまらなかるべしとおほせになつた萬世一系の天皇をいただいて、天地と共にいつの世までも動くことのないわが國體の基は實にこの時に定まつたのである。(尋常小學國史上卷)

天照大神賜皇孫天津彥彥火瓊瓊杵尊三種神器、因勅曰、視此鏡猶視吾、葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可王之也。宜爾皇孫就而治焉。行矣。寶祚之隆、當與天壤無窮者矣。

葦原千五百秋之瑞穗國  
吾が國ノ美辭

寶祚、天皇ノ御位



三五 清麻呂忠節

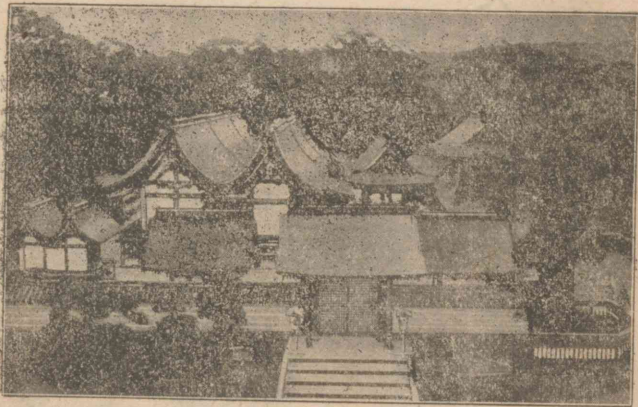
皇朝金鑑

孝謙天皇、第四十六代  
ニアタラセタマフ

不軌、ムホソ

宇佐八幡宮、大分縣宇  
佐町ニ在ル

（未之有）、イマダ（コ  
レアラズ



宇佐八幡宮

孝謙帝朝、僧道鏡謀不軌。帝令下和氣清麻呂詣宇佐奉幣八幡宮。清麻呂歸復命曰。臣親受神勅云。我國家開闢以來君臣分定矣。以臣為君未之有也。天日嗣必立。

皇緒、皇統ニ同ジイ  
鏡觀、音キユ、ウカガ  
フ

皇緒而道鏡何者敢觀觀神器。大逆無道宜早翦除焉。道鏡大怒流清麻呂於大隅。

不軌。奉幣。翦除。觀觀神器。大逆無道。以臣為君未之有也。天日嗣必立皇緒。

三六 格言

士當先天下之憂而憂後天下之樂而樂。（小學）  
勿以惡小而為之勿以善小而不為。（小學）

司馬溫公嘗曰吾無過人者但平生所為未嘗有不可

司馬溫公、宋ノ人、名  
ハ光、字ハ君實



對人言者耳。(小學)

劉安世見溫公問正心修身之要。公曰其誠乎。安世問行之何先。公曰自不妄語始。(小學)

三七 孟母斷機

蒙 求

孟子既長出就外師。及學而歸。母問學所至。孟子曰如舊。母以刀斷機上織。曰汝中道廢學。猶吾斷此織也。孟子懼。旦夕勤學不息。遂成大賢。

且旦。師一師(將帥)。廢(廢物)。廢(廢疾)。長一十ガシ、長短。一オト十、長幼。一カシラ、君長。

三八 勸學

朱 熹



勿謂今日不學而有來日。勿謂今年不學而有來年。日月逝矣。歲不我延。嗚呼老矣。是誰之愆。

三九 偶成

朱 熹

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧葉已秋聲。

朱熹、世ニ朱子トイハレル、宋ノ大儒



曾先之、元ノ人、字ハ從野、十八史略ヲ著レタ

楚、支那ノ周代ノ國名

阜、岡

霸、ハタガレラ

四〇 三年不飛

曾先之

楚莊王即位三年、不出令。日夜為樂、令國中敢諫者死。伍舉曰、有鳥在阜、三年不飛、不鳴、是何鳥也。王曰、三年不飛、飛將衝天。三年不鳴、鳴將驚人。乃改心、明日聽政。國人大悅、遂霸諸侯。

**練智** 衆人居富多忘貧、須節儉而無奢侈。歲長多忘父母、須終身思慕。病癒多忘慎、須常思病苦時。凡自修者、當以忘初為誠。  
(慎思錄)

管得庵、名ハ玄洞、藤原隆房ノ高弟デアツタ  
林羅山、名ハ信勝、徳川氏ニ仕ヘテ儒官トナツタ  
通鑑綱目、五十九卷、支那ノ歴史、朱子ノ編纂ニカカル

四一 除日講起

原善



林羅山

歲暮、管得庵謂林羅山曰、余未讀通鑑綱目。請先生以明春為余講之。羅山曰、子心誠求之、何

待來年、即以除日講起

管管。綱綱。除徐。待侍。  
除日。除夜。歲暮。歲末。



函人、具足師

四二 函人

中村

和

酒井忠勝、徳川家光ニ  
仕ヘテ老中トナツタ  
乙夜、今ノ午後十時頃

某侯令<sup>ニ</sup>函人作<sup>ル</sup>鐵甲。既成。欲試<sup>ス</sup>之。函人曰。臣能以<sup>テ</sup>身當<sup>ル</sup>之。乃擐<sup>キ</sup>其甲而立。侯命<sup>ジ</sup>善射者以<sup>テ</sup>強弓勁矢利鏃射<sup>ス</sup>之。中胸鏗然。矢躍而不入。侯曰。善。吾既試<sup>シ</sup>其前矣。未知<sup>キ</sup>其後何如。將試<sup>ス</sup>其背。函人釋甲而跪曰。臣未<sup>ダ</sup>慣<sup>レ</sup>作<sup>ル</sup>怯者甲。請辭<sup>ス</sup>。侯曰。吾過矣。賞<sup>ス</sup>之以<sup>テ</sup>金。

**練** 酒井忠勝、好讀書。每夕、使<sup>メ</sup>儒臣侍講<sup>ス</sup>。限<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>乙夜。雖<sup>モ</sup>公事多端。未<sup>ダ</sup>嘗廢懈<sup>ス</sup>。語人曰。坐<sup>シ</sup>一室之中、而知<sup>ル</sup>萬里之外、生<sup>ク</sup>千載之下、而知<sup>ル</sup>百世之上、何樂<sup>カ</sup>加<sup>ヘ</sup>焉。(鹽谷世弘)

四三 句例十

(何、也)、ナンゾ...

ナンゾソノ盛ナルヤ。何其盛也。

(安、哉)、イツクンア...

イツクンゾ用フルニ足ランヤ。安足用哉。

(豈、乎)、マニ...ヤ

アニ報ヲ望マンヤ。豈望報乎。

(況、乎)、イハンヤ...

イハンヤ人ニ於テヲヤ。況於人乎。

(嗚呼、哉)、アア...カ+

アア、壯ナルカナ。嗚呼、壯哉。

**練** 何其德之衰也。嗟呼、燕雀安知<sup>ル</sup>鴻鵠之志哉。吾豈好爭哉。公侯將相、寧有種乎。禽獸且知<sup>ル</sup>恩、況於人乎。死馬且購<sup>フ</sup>之、況於生者乎。嗚呼、衰哉。



本多忠勝、徳川氏ノ功臣、四天王ノ一人、小字、オホナ名、鳥屋、愛知縣ニ在ル

長湫、愛知縣安知郡ニ在リ、天正十二年、徳川家康ガ豊臣秀吉ヲ此ノ地ニ破ツタ

四四 本多忠勝

頼

裏

本多忠勝、小字平八郎、年十四、從叔父忠真、攻鳥屋。忠真鏖斃一人、顧平八、取其首。答曰、孺子寧欲因人成功哉。自斃一人、試之。

四五 壯哉平八

頼

裏

忠勝善用槍、所愛一槍、名曰截蜻蛉。長湫役、兩軍相距數百步、竝隊而馳。忠勝戴鹿角冑、提截蜻蛉、

不回踵、フ 東ノマライ  
飲ミツカイ

土屋弘、鳳洲ト號ス、  
大正十五年卒

下鞍飲馬於河。豐太閣望見曰、嗚呼、壯哉、平八。以



本多忠勝

我三萬擊彼五百、猶石壓卵、粉碎、不回踵而從。容飲馬、以示餘暇、何其壯也。歎嗟久之。

寧欲因人成功乎。猶石壓卵。不回踵。

青砥藤綱、嘗夜行、遺十錢水中。乃買炬照水撈之。炬直五十錢、或曰、得不償失。藤綱曰、五十錢、吾失人得、十錢誰得之者。我取六十錢、以益於世、不亦大得乎。(土屋弘)



大久保忠教、通稱ヲ彦左衛門トイフ、剛直ヲ以テ名ガアル

四六 忠教不避

角田 簡

宇治貢茶於幕府、路上避人例也。大久保忠教遇之途、故不避。吏呵之、忠教爲不知曰、汝等何爲者。曰、此是官茶、當避之。忠教曰、茶豈貴於人哉、況於我是官人乎。宜避我矣。

豈貴於人哉。況於我是官人乎。宜避我矣。

塙保己一、盲人ノ大學者、和學講談所ノ總裁トナツタ  
重野安綱、薩摩ノ人、成齋ト號ス

塙保己一嘗爲門人講源氏物語。方暑夜風滅燭。衆曰、請且停講。燭滅矣。保己一笑曰、何有眼者之不便也。(重野安綱)

四七 武將宜如此

中村 和

伊達政宗、仙臺藩ノ始祖



伊達政宗

伊達政宗、幼名梵天生甫五歲、嘗出游佛寺、見不動像、指問近臣曰、此何者、何其顏貌之猛也。對曰、不動明王。其貌雖猛、其心則慈悲濟衆。梵天曰、武將宜如此。

吳忠教不避 聖武將宜如此



旅順、明治三十八年一月一日ニ開城シタ  
二子、勝典・保典、共ニ戰死シタ

四八 乃木大將

土屋 弘

旅順既降。或訪乃木大將。賀戰捷。且弔其二子。大

將泣然曰。七月

以來。我喪幾萬

乃木大將 愛兒矣。如吾二

子。守平生訓言。



耳。何足深悲哉。嗚呼。此一語。可以泣神人矣。

訪問。捷□。愛□。訓□。呼□。神□。

爾靈山、二〇三高地、  
旅順背面ノ險要、我  
軍ノ旅順ヲ陷レタノ  
ハ、二〇三高地ヲ占  
領シタコトニ因ル

鹽谷時敏、青山ト號  
ス、大正十四年卒  
稅、音バン、トムラフ

通、セマル、人ヲ變フ

法庫門、滿洲帝國奉天  
省ニ在ル

四九 爾靈山

乃木 希典

爾靈山險豈難攀。

男子功名期克艱。

鐵血覆山山形改。

萬人齊仰爾靈山。

吾挽乃木將軍。

鹽谷 時敏

將軍忠義貫心肝。

生不愛錢死亦安。

萬古爾靈山上月。

清光凜凜逼人寒。

法庫門營中作

乃木 希典

東西南北幾山河。春夏秋冬月又花。征戰歲餘人馬老。  
壯心尚是不思家。



青山延子、水戸ノ人、  
拙齋ト號ス、天保十  
四年卒  
仁徳天皇、第十六代ニ  
アタラセタマフ  
難波、今ノ大阪市

聖、音アツ、シツクヒ  
ノコト  
以爲、オモヘラシク

暴露、音バツロ、アマ  
ザラレトナル

五一 仁徳天皇

青山 延子

仁徳天皇即位、都攝津難波。謂之高津宮。宮室不  
聖。務從節儉。一日、帝登臺遠望。炊煙不起。以爲百  
姓窮乏。詔除課役。三年、宮垣頽敗。無所營作。其後、  
帝復登臺遠望。見炊煙盛起。謂皇后曰。朕既富矣。  
復何憂乎。后曰。今宮室朽壞。不免暴露。何謂富乎。  
帝曰。君以民爲本。民富則朕富也。未有民富而君  
貧者。今炊煙盛起。是民富也。朕無憂矣。

高倉天皇、第八十代ニ  
アタラセタマフ  
仕丁、禁中ノ雜役ニ服  
スルコモノ

叩頭、頭ヲ地ニツケテ  
拜スルコト

唐詩、白樂天ノ詩、「冰  
燭燭、酒燒紅葉、石  
上題詩、詩、緑苔」

菊池純、紀伊ノ人、三  
溪ト號ス、明治二十  
四年卒

五二 燒紅葉煖酒

青山 延子

高倉天皇幼時、有獻楓樹者。帝極愛之。命藤原信  
成守之。一日、仕丁將飲酒。翦枝爲薪。以煖酒。信成  
見大驚。收仕丁將寘之罪。具奏其狀。叩頭請罪。天  
皇從容曰。唐詩有云。林間煖酒燒紅葉。誰教仕丁  
作此風流。無復所問。

五三 阿倍仲麻呂

菊池 純



阿倍仲麻呂、留學生トナリ、唐ニ仕ヘテ、名ヲ朝衡ト改メテ、玄宗、唐ノ皇帝

和歌「天の原ふりさけ見ればかすがなる、三笠の山に出でし月かも」絶唱、スグレタ詩歌

阿倍仲麻呂性聰敏、好讀書。年十六、選爲遣唐留學生。玄宗愛其才、而厚遇之。在唐五十餘年。身雖榮貴、思歸不已。嘗望月爲和歌。後世傳爲絶唱。當時、我邦才學之士甚多。而仲麻呂最擅名海外云。

五四 菅公忠愛

青山延子

菅原道真是海を渡つてはるばる筑前に下つたが、その後も門を堅く閉ざして一室にきんしんしかた時も醍醐天皇の御事をか忘れ申すことはなかつた。いつのまにか春が去つて夏もすぎ、はや九月十日となつた。ちやうど去年

五朝、清和、陽成、光孝、宇多・醍醐天皇ヲサシタテマツル

太宰府、府址ハ福岡縣筑紫郡ニ在ル



菅原道真

の今日今夜こそ宮中の御宴の席にはべり、詩をさし上げて天皇の御心になまひ、御衣をいたゞいた日であることを思ひ出しては、今更のやうに、君恩のかたじけなきに感じ入り、恩賜の御衣をさゝげて、涙ながらにあつく御禮を申しあげ、詩を作つてその真心を述べたのであつた。

(尋常小學國史上卷)

菅原道真歴事五朝、尤爲宇多帝所親任。後以讒貶、爲太宰權帥。道真在



自遣、ウサヲハラス  
無聊、ヒマヲコマル

重陽、節句ノ名、九月  
九日ニアタル

清涼、清涼殿ノコト

配所閉門不出。託文墨自遣。雖謫居無聊、未嘗忘

忠愛之意。重陽後一日、賦詩曰、

去年今夜侍清涼。

秋思詩篇獨斷腸。

恩賜御衣今在此。

捧持每日拜餘香。

聞者莫不感歎。

文墨 || 文筆。自遣 || 消遣。忠愛 || 忠君愛國。

五五 孝高卻銀

角田 簡

黑田孝高家頗富而自奉甚儉。日根野備中奉使

盤費、旅費ノコト

鱈魚、音キヨクレフ  
ギヨ、鯛

赴朝鮮。盤費空乏、假銀百枚于孝高。已歸往而謝



焉。偶有饋鱈魚者。孝高命庖人羹其骨以饗客。備中心賤其吝。及辭取銀還之。孝高卻之曰、昔有萬里之行、吾與之耳。豈望見返哉。竟不受。

富貴。儉 □。歸 □。謝 □。客 □。賤 □。

吳、支那周代ノ國名、揚子江ノ南ニ在ツタ  
上國、カミガタ  
徐、國名、江北ニ在ツタ

吳公子季札出使上國。北過徐君。徐君愛其寶劍、口不



敢言。札心知之。爲使事未了。未獻還。至徐。徐君已死。乃解劍。得徐君塚樹上。拜而去。從者曰。徐君已死。尚誰贈乎。札曰。始吾已心許之矣。豈以其死。背吾心乎。(日記故事)

五六 叔敖陰德

日記故事

楚孫叔敖爲兒時。嘗出游。見兩頭蛇。殺而埋之。及還。憂而不食。母問其故。叔敖泣而對曰。聞見兩頭蛇者死。向者吾見之。恐去母而死無日矣。母曰。蛇今安在。曰。兒恐後人。又見已殺而埋之。母曰。吾聞

莊王、楚王ノ名

令尹、音レイキーン、楚國ノ官名、宰相ニアタル

殃、音アウ、慶ノ反對ワザハヒ

二子胡

有陰德者必有陽報。汝不死矣。及長。莊王聞其賢。迎爲令尹。

陰陽。出□。長□。賢□。□食。□死。□還。

五七 格言

積善之家必有餘慶。積不善之家必有餘殃。(善書)  
有陰德者必有陽報。有隱行者必有昭名。(雜書)

五八 加藤戰狀

土屋 弘



京畿大風霾、云云、慶  
長元年七月、京都・慶  
伏見地方ニ大地震ガ  
アツク  
風霾、大風ガ土沙ヲ空  
ニマキアゲテ降ラス  
コト

肥哲、ヨク肥エテ、色  
ノ白イコト

襤褸 ムツキ、孩兒ノ  
時ライフ

加藤清正、從朝鮮還、小西行長、石田三成、讒之、秀  
吉、不許見、乃歸第、俟命。時京畿大風霾、地大震、伏  
見城頽、壓死數百人。清正曰、吾寧犯罪、不可坐視。  
乃從卒二百、入省、秀吉與夫人席地而坐。目  
清正、呼其幼字曰、阿虎、若來何速。清正因前訴冤、  
畫地而語、陳其軍勞。秀吉顧夫人曰、彼肥哲丈夫、  
今至自朝鮮、何驚且悴也。乃命守其門。旦日、秀吉  
召見清正、推問海外戰狀、泣下曰、阿虎襤褸育於  
我、乃類我也。遂愛遇如故。

今川義元、駿河・遠江  
ニヨツテキタ  
賢、音キ、入賢  
駿府、今ノ静岡市  
五月五日、端午ノ節句

五九 將門出將

類

裏



其寡者、僕怪問故。公曰、衆者恃勢、其心不一。寡者

東照公、幼質今川氏、在  
于駿府。五月五日、出游  
安倍河原、觀兒童石戰。  
一群百五十人、一群倍  
之。觀者爭就其衆者。公  
年甫十歲、在僕背、命就



所謂、イハユル  
將門出將、史記ニ、將  
門必有將トアル

毛利元就、安藝ノ國主  
後、山陽・山陰道ヲ領  
地トシタ

懼而專力其勝必矣。果如其言。義元聞之曰。所謂  
將門出將者也。

練習 毛利元就、小字松壽、比幼年詣嚴島神祠。既歸、問從者  
曰、汝輩何祈。曰、祈郎君主安藝也。松壽曰、汝盍祈吾主天下。夫  
願主天下者能主一方。願主一方者能主一國。今願主一國矣。  
其所成可知。己聞者奇之。(賴義)

六〇 元就戒子

大槻清崇

元就病將死。召諸子於前。各取箭一條。乃手自糾

隆景、元就ノ第三子、  
後、小早川氏ヲ嗣グ、  
本文ニ次子トアルハ  
誤アル



毛利元就

爲一束。極力折之。不能斷也。單抽其一條。隨折隨  
斷。因戒曰。兄弟猶此箭也。和則相依濟事。不和則  
各敗。汝等銘心勿忘。次子  
隆景進曰。夫兄弟之爭。必  
起於欲。棄欲思義。何不和  
之有。元就悅。顧餘子曰。宜

從仲兄之言。

練習

兄弟如左右手也。(後漢書)

兄弟鬩牆外禦其侮。(詩經)



六一 木村重成

賴 裏

元和、後水尾天皇ノ年  
號、大坂夏ノ陣ヲサス  
謙、屬スル  
東軍、關東方  
若江、地名、大坂府ニ  
在ル  
挺進、前進ノ意  
隴、音ロウ、小高い處

元和元年夏、大坂謀、再舉、分軍爲三。重成領一軍、  
眞田幸村等隸之。東照公、潛使人招重成。重成不  
應。既而東軍進、自大和河內、并伊直孝、伊達政宗  
等爲先鋒。重成與直孝相拒。若江堤、擊破其前隊。  
重成揮槍挺進。所向皆靡。斬東將山口重信等三  
十餘人。而其兵死傷略盡。乃據隴而息。敵以生兵  
乘之。飯島某勸重成宜還城。重成掉頭不肯。遂死。

纓、音エイ、ヒモ  
無餘、ムスビキルコト  
預、アマカジメ、マヘ  
モツテ

西軍、大坂方ヲサス

之。直孝部兵、取其頭、獻之。東照公、公檢之。胃纓無  
餘、而頭髮有香。公歎惜曰、是預決死也。

六二 幸村力戰

中 村 和



眞 田 幸 村

西軍不利而退。幸村進  
邀伊達政宗軍。政宗兵  
長騎戰。勁騎八百馬上  
發銃、乘煙馳突。所向無  
前。每以此得志於東國。



譽田、地名、大阪府ニ在ル

幸村諳知之。乃引兵上譽田東阜。就凹處而布陣焉。令其兵皆脫胄委槍。坐以待指麾。政宗軍稍進。幸村令曰。胄。相去數十步。令曰。執槍。敵發銃。馳至。遇槍而沮。又令曰。皆起。兵士齊進。縱之。敵兵大潰而走。幸村轉陣南阜。收兵而退。

【譯】

德川賴宣、家康ノ第十子、紀伊ニ封セラレタ  
茶白山、大阪城ノ南ニ在リ、今ハ市内トナツタ  
修、長イ

大阪既陷。東照公進上茶白山。公子賴宣自後軍馳見。諸軍輜重屬途爭進。賴宣曰。是軍既捷。將舍也。已而城樓煙颯。賴宣咄嗟而進。至茶白山。則諸將賀者大聚。賴宣揮涕曰。大人置兒後軍。使不及事。松平正綱曰。君十四歲矣。前途修遠。不患

變色、怒ルコト

ローマ

貞山公、伊達政宗、仙臺藩ノ祖

台德公、二代將軍德川秀忠

月浦、宮城縣北鹿野村、濱村ニ在ル

不建功。賴宣變色曰。吾復有十四歲乎。公曰。汝此言。足以當首功也。  
(豊谷世弘)

六三 政宗遣使於羅馬

事實文編



支倉六右衛門

船手、發帆於牡鹿月浦。經六年。歸。將監及船手皆

貞山公、遣支倉六右衛門。橫澤將監。往羅馬。台德公、賜皇國名產。諸種為幣物。且付



羅馬法王、耶穌基督ノ教主

宛、音エン、サナガラ

死、獨六右無恙。奉呈羅馬法王回翰及諸物。中有法王畫像。法王贈像謂六右曰。貴邦人未見余面。則見此畫。誰辨真偽。故畫卿像副之。知卿像真。則又知我像之非偽矣。畫彩用油。宛有生色。公聞之。稱其知慮云。

回翰。宛有生色。誰辨真偽。不辨真偽。

六四 義家學兵法

賴

裏

源義家、賴義子也。稱八幡太郎。材武善射。從父討

夷、平ゲル  
陸奥戰事、前九年ノ役  
安倍賴時ヲ征伐シタ

愠、本字ハ愠

後三年役、潘原武衛ヲ  
征メテ平ゲタ  
金澤柵、山形縣仙北郡  
金澤村ニ在ル  
裏、音アウ、ミナゴロ

覆、伏ニ同ジ

安倍貞任、夷之。嘗過藤原賴通第。談陸奥戰事。博士大江匡房在別室。聞之曰。好男子。惜未知兵法。從者微聞之。愠告義家。義家曰。其或然。見匡房出。禮之。遂就學焉。後三年役。攻金澤柵。去柵數里。望見雁行亂。曰。是有伏也。縱兵搜索。果獲麋之。謂衆曰。兵法言。鳥亂者伏也。我不學則殆矣。

釋語

鳥起者伏也。獸駭者覆也。(孫子)

六五 八幡公

賴

裏



結髮、元服ノコト、年少ノ意

漢文精選階梯

六八

結髮從軍弓箭雄。八州草木識威風。  
白旗不動兵營靜。立馬邊城看亂鴻。

六六 格言

子曰、人無遠慮、必有近憂。(論語)  
子曰、有文事者、必有武備。(史記)

六七 義光赴兄急

頼 裏

義家弟義光、稱新羅三郎。亦勇智多技能。是時、爲

音、音辨ノコト

足柄山、神奈川縣足柄上郡ニ在リ、箱根山ニツラナル

先君、亡キ父君、頼義ノコト

柵、金澤柵

鎌倉景政、權五郎ト稱レタ



泣曰、吾見汝、猶見先君也。乃與俱進攻柵固不

右兵衛尉、在京師、聞兄軍不利、赴援。義光素好音、嘗學笙於豐原。時元是時、時元已死、其孤子時秋、送義光至足柄山會。月明、義光因吹笙、盡授所學訣別、遂至陸奥。義家喜也。乃與俱進攻柵固不拔。義家因會食、設勇怯兩列、以勵戰士。義光從臣腰季方、無日不列勇列也。相模人、鎌倉景政挑戰、敵射中其右目。景政不拔箭、而索射己者、終射殺

六格 音 六七 義光赴兄急

六九



岡松辰、豐後ノ人、變谷ト號ス、明治十八年卒

太田道灌、名ハ持實、後、髮ヲ削ツテ道灌ト號ス  
棟棠、音テイタウ、山吹花ノコト

之。

孤一孤。訣一決。怯一怯。法一法。挑一挑。桃一桃。技一技。

六八 太田道灌

岡松辰

太田道灌、嘗放鷹於野。會雨俄至。過民家借蓑衣。少女折棟棠一枝以進。道灌不擇而去。或謂道灌曰。古歌有言。

七重八重花波咲計登毛山吹乃

實乃一都太仁無幾曾悲志幾。

須臾、音シユエ、シバラジノ意



太田道灌

蓋邦訓實乃與蓑衣相通。女子意訴家貧不藏蓑衣也。道灌大愧自是折節讀書學和歌究奧義。後

率兵入下總夜自山下遵海而進衆恐潮未退道灌驅馬出候潮須臾還報曰潮涸矣衆問其故曰古歌

云。

遠久奈利近久鳴海乃濱千鳥  
鳴音仁潮乃滿千遠曾知留。



適聞鳥聲在遠所以知潮涸也遂進兵果如其言

六九 詠史

大槻清崇

一

村女應門未發辭  
獵歸逢雨乞簔時  
有華無寶君看取  
捧出棣棠黃一枝

二

才兼文武有斯公  
一激怒能學國風  
斥候他年辨潮落  
水禽聲在遠洋中

一激、一度感激スルコト  
國風、和歌ノコト

七〇 鈴木犯籙

土屋 弘

家康在參河有犯禁者二人其一弋于園其一網于濠皆被拘繫牙兵鈴木久三欲諫之未有路乃故矯令取池籙鯉煮而食之他日家康觀於池守者告故家康大怒欲手斬久三久三入張目罵曰噫暗主以禽魚易人惡乎得為天下主家康大悟拋刀而入遂釋前二人召久三褒之後語人曰直言之功愈一番槍

參河、岡崎市ヲサス  
弋、音ヨク、鳥ヲトルコト  
園、音イワ、カコヒノアル庭苑、鳥獸ヲカフ所  
牙兵、麾下ノ兵士  
池籙、音チギヨ、イゲス、魚ヲカフ所



七二 信綱捕乳雀

鹽谷世弘

大猷公、三代將軍德川家光

大將軍、德川秀忠

勉強、ツトメテ

譏然、バツタリト音ノスルコト

窮詰、トヒツメル

首實、白狀スル

大猷公幼時嘗見屋上乳雀命近臣往捕之屋係大將軍燕室衆莫敢往乃推松平信綱曰汝年幼體輕宜往信綱勉強應命夜潛緣屋索之失足墮中庭譏然有聲大將軍提刀夫人執燭而出見信綱詰之對曰臣觀乳雀心欲之竊來捕也大將軍曰否是必有主使者窮詰再四而不告大將軍怒內信綱於巨囊中而緘其口懸之柱曰汝首實即

餒、音シエン、タベノコリ

縱、放ツ、ユルス

目送、見オクリスル

孺子、ヲサナゴヲ呼ブ

許去信綱自囊中爭之徹旦旦日大將軍出視政



德川家光

人曰孺子能如此後必羽翼吾兒

夫人憫之私肘囊口以餒啗之復緘口如初日中大將軍入復詰之終不改辭夫人固請而縱之

七三 大猷公英邁

鹽谷世弘



大城、江戸城  
祖考、考ハ亡キ父、祖  
考ハ亡キ祖父ヲイフ  
沐ニ櫛風雨ニ櫛風沐雨ノ  
意

三世 家傳・秀忠・家光  
ヲサス

唯唯、恐レ入ルコト

大猷公長聰明勇決、恩威並行。初爲將軍、盡召天下  
下侯伯于大城、告之曰、我祖考沐櫛風雨、百戰以  
定天下。吾年尚少、未嘗親汗馬。卿等欲代宰天下  
乎、宜各歸藩、以備兵。吾且進旆、以試利鈍焉。皆俯  
伏無言。伊達政宗前曰、三世德澤深矣。諸侯孰敢  
不從命。或有異志、政宗請前驅、以討滅之。諸侯唯  
唯而退。自是、德川氏權勢益定。

漢文精選階梯終

附 錄

部首表

漢字象形文字也。有形、有音、有訓。形以象事物、音以表發音、訓以  
示意義。凡字形示所屬曰部首。部首數有二百十四類。

字體有左右、上下、內外之別。在左曰扁、在右曰旁、在上曰冠、在下  
曰脚、在外曰構、或曰垂、曰繞。

點畫最簡者、始於一點、其複雜者、或至數十畫。凡字典據點畫檢  
之者、曰畫引。



口 入 人 二 イ	二 畫	乙、一	部 首	一 畫
ケイ ジフ ジン ジ		イツ チエ イツ	音	
けい ままがまへ いがまへ		にん べん	おつねう	
ハ ル 一 ン	二 畫	ノ	部 首	一 畫
ハツ ジン トウ ヒヨウ		ケツ ヘツ コン	音	
はちがしら にんねう		けい さいさん かんむり	にすゐ	

土 口	三 畫	厂 ト 口 ヒ カ 口 几 一	部 首	一 畫	
ド コウ		カン ボク ハツ ヒ リヨク カン キ ベキ			音
くちへん ぢへん		がんだれ はこがまへ ちから かんねう あかんむり			通 辭
士 口	三 畫	ム 尸 十 亡 夕 刀 又 巳	部 首	一 畫	
シ コキ ク		シ セツ シフ ケイ ハウ タウ イウ			音
くにがまへ		ふしづくり かくしがまへ つつみがまへ りつたう			通 辭



久 夕 女 宀 小 尸 山 工 巾 幺 又 弋

チ セキ 干ヨ ベン セウ シ サン コウ キン エウ イン ヨク

をんなへん  
うかんむり  
しかばね  
しかばねかんむり  
やまへん  
はばへん  
さんべん  
いんねう  
えんねう

又 大 子 寸 尢 尢 巳 干 广 井 弓

ズ井 ダイ シ ソン イウ テツ セン キ カン ゲン キヨウ キツ

すのねう  
こへん  
まだれ  
ゆみへん

心 戸 支 文 斤 无 日 木

シン コ シ アン キン ア エツ ボク

りつしんべん  
したごころ  
とかんむり  
しねう  
えだねう  
ぶんねう  
をのつくり  
ひらび  
さへん

四畫

ヨ ヨ ヌ イ

ケイ テキ

けいがしら  
ぎやうにんべん

戈 手 支 斗 方 日 月 欠

クワ シュ ボク トウ ハウ ジツ ゲツ ゲン

てへん  
ぼくねう  
とます  
かたへん  
にちへん  
ひへん  
つきへん  
あくび



瓜	甘	用	足	𠂔	皮	目	矢	示	禾	立
クワ	カン	ヨウ	シヨ	ハツ	ヒ	モク	シ	シ	クワ	リツ
				はつがしら	けがは	めへん	やへん	しめすへん	のぎへん	たつへん
毛	生	田	𠂔	白	血	矛	石	肉	穴	
ケツ	セイ	テン	ダク	ハク	メイ	ボツ	セキ	シツ	ケツ	
	たへん	やまひだれ		さら	ほこへん	いしへん			あなかんむり	

玄	五	牛	片	爻	爪	水	氏	比	爰	止
ゲン	五	ギウ	ヘン	カウ	サウ	スイ	シ	ヒ	レユ	シ
		うしへん	かたへん	さうねう つめかんむり	さんかおへん さんかおへん			るまた	とめへん	
玉		犬	牙	月	父	火	气	毛	母	𠂔
ギョク		ケン	ガ	サウ	フ	クワ	キ	モウ	ア	ガツ
たまへん		けものへん	きばへん	しやうへん		れんへん ひへん	きがまへ			がつへん



六畫

竹 糸 网 羽 而 耳 肉 自 白 丹

月

チク ベキ バウ ヲ シ シ ニク シ セン

たけかんむり

いとへん

あみがしら

みみへん

にくづき

米 缶 羊 老 耒 聿 臣 至 舌 舟

メイ フ ヤウ ラウ ライ イツ シン シ ヲ シウ

こめへん

ほとぎへん

ひつじへん

すきへん  
らいすき  
ふてつくり

したへん

ふねへん

艸 虫 行 西 艮

艸

コン サウ キ カウ ア

さうかう  
くさかんむり

むしへん

ゆきがまへ

色 虎 血 衣

衣

シヨク コ ケツ イ

とらかんむり

ころもへん

七畫

見 言 豆 豸 赤

ケン ゲン トウ チ セキ

ごんべん

まめへん

むじなへん

角 谷 豕 貝 走

カク コク レ バイ ソウ

つのへん

あのこへん

かひへん  
こがひ

とうねう



非	雨	隶	門	金	采	邑 下	辰	車	足
ヒ	ウ	タイ	モン	キン	ベン	イフ	レン	レヤ	ソク
あめかんむり あまかんむり		もんがまへ かごがまへ		かねへん	のぐめへん	おほざと	くるまへん	あしへん	
青	佳	阜 下	長	里	酉	走 ミ	辛	身	
セイ	スイ	フ	チヤウ	リ	イウ	チヤク	レン	シン	
ふるとり		こざとへん		さとへん	とりへん ひよみのとり	しんねう		みへん	

高	馬	香	食	風	音	韋	面	九 畫
カウ	バ	カウ	シヨク	フウ	オン	キ	メン	
うまへん		しよくへん		なめしがは				
影	骨	首	飛	頁	韭	革		
ヘウ	コツ	シユ	ヒ	ケツ	キウ	カク		
かみかんむり かみがしら	ほねへん	おほがひ		かはへん				



十三畫	黒 黄	十二畫	麥 鹵 魚	十一畫	鬲 門
	コク クワツ		バク ロ ダヨ		レキ トウ
			ばくねう うをへん		かなへ (とうがまへ たたかひがまへ)
	糝 黍		麻 鹿 鳥		鬼 鬯
	チ シヨ	マ ロク テウ		キ チヤウ	
		あさかんむり	とりへん	まねう	

十七畫	龍	十六畫	齒	十五畫	鼻	十四畫	鼓 鼈
	リヨツ		レ		ヒ		コ ビン
			はへん				
	龜				齊		鼠 鼎
	キ			セイ	ソ テイ		



昭和三十一年一月二十日  
中華學校國語文教科書  
文部省檢定濟

發行所

東京市神田區神保町二丁目四十番地  
振替口座東京八一五番  
電話九段一三六八・一三六九番

株式會社  
弘道館

漢文精選階梯

定價三拾五錢



菅生  
所有

著者  
發行者兼  
印刷所

鹽谷温  
株式會社  
東京市神田區神保町二ノ四〇  
代表者 辻本卯藏  
共同印刷株式會社  
東京市小石川區久堅町一〇八

昭和十二年十一月一日印刷  
昭和十二年十一月五日發行

昭和

年十二月二十四日訂正再版印刷  
年十二月二十七日訂正再版發行

漢文精選階梯附錄終



國朝中...  
中華書局...  
...

廣集

曲豆

曲豆

禎  
健  
吉



